

# 研究所だより

第116号 令和2年5月  
発行:草津市立教育研究所

## 「不登校対策を担う新しい研究所へ」

草津市立教育研究所 所長 藤井 泰三

4月1日付で所長に就任しました藤井泰三です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本来であれば子どもたちは新しい環境に少しずつ馴染んで、友達や先生との関係性が深まり始める頃です。しかし、現在、新型コロナウイルス感染症の拡大という難局に直面しており、人との接触に制限がある状況が続いています。未だ収束の見通しがたらず、子どもたちはつながりを深められず、不安、混乱、ストレスの中で過ごしていると想像できます。

これまでも学校現場は様々な困難や課題に何度も直面してきました。その度、危機意識を高め、結集してチームを作り、解決へのビジョンを立てて戦略や道筋を見いだしてきました。そして、共通理解のもと役割を分担し、協力し合い、解決を図ってきました。今こそ、その経験を生かすことが求められています。

中国の『旧唐書』に「胆は大ならんことを欲し、心は小ならんことを欲す」という言葉があります。「胆大心小」という四字熟語の方が耳慣れているかもしれませんが、「度胸と細心の注意で事に当たれば、たいていの難局は乗り越えられる」という意味です。学校の枠を越えて地域、関係機関等一丸となって、臆さずかつ注意深くことにあたり、ともに成功、あるいは価値ある失敗を積み重ねながらこの未曾有の危機を乗り越えていきましょう。



今年度の教育研究所は「不登校対策を担う新しい研究所へ」をスローガンにスタートしました。全国的に増加する不登校等学校不応児児童生徒。同様の傾向が見られる草津市では、特に小学校での増加が課題となっており、不登校対策を重点課題としています。

そこで、今年度より社会福祉の専門性を持つSSW（スクールソーシャルワーカー）を新たに教育研究所に配置し、機能強化を図りました。昨年度まで市の派遣SSWだった恒松SSWが研究所に常駐します。それにより恒松SSWの指導の下、適応指導教室等の相談事業を活性化だけでなく、児童生徒支援課との連携を強化することで市・県のSSW派遣、効果的なケース会議や関係機関との連携のコーディネート、教育相談主任のスキルアップに向けた研修等に積極的に取り組んでいきます。さらに、不登校の未然防止や早期発見に向けても教育研究所のスーパーバイザーによるストレスチェックやモニタリングを実施していきます。

不登校等学校不応の子どもやその保護者をサポートできるように、また、その子どもや保護者の対応をする担任の先生・教育相談主任をアシストできるように「チーム研究所」で取り組んでいきたいと思ひます。

皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



# 令和2年度教育研究所事業紹介

## 研究奨励事業



- ・昨年度、小学校・中学校・幼稚園・こども園より59点と多数の応募がありました。本年度も4部門（ステップアップ研究部門、フレッシュ研究部門、就学前教育研究部門、アイデア部門）で実施し、教育研究のより一層の広がりを目指します。
- ・すべての所、園、学校からの応募を期待しています！！

## 研修講座

- ・夏季休業中に開催を予定しています。
- ・自己啓発講座を実施する予定です。
- ・夏季休業中に、教育研究所研究発表大会を予定しています。

※夏季休業日が確定次第、詳細をお知らせします。

ホームページを御覧ください

研究所の取組について  
情報発信をしています。



草津市立教育研究所

検索

## 調査研究

【教育課程に関する調査・実践研究】

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～一人一台のタブレットPCの有効的な活用～」をテーマにして調査・実践研究を行います。

【地域教材】

- ・小学校3・4年生向け社会科副読本「わたしたちの草津」の次期改訂に向けて編集委員会を立ち上げ、今年度は副読本等を活用した実践の調査・研究を行います。（小学校3年生を対象）。
- ・副読本ならびに、指導書(実践事例集)、ワークシート・評価問題の有効活用を推進してください。

## スキルアップ事業

- ・担当学校に訪問し、授業づくりや学級づくりなどに関する個別指導やグループ指導を行います。また、全校・学年別・教科別などの授業研究会を通して、学校全体の指導力の向上を目指します。

小学校担当

北川 健（草津・草津第二・老上・老上西・南笠東・山田・常盤）

小宮 康（志津・志津南・渋川・矢倉・玉川・笠縫・笠縫東）

中学校担当

藤井 泰三（すべての中学校）

ICT担当

仲野 忠克（すべての小・中学校）

私たちもよろしくお祈りします！

所長：藤井 泰三

指導主事：奥村 真也

研究員：陌間 智



## 教科書展示会のお知らせ

期間 6月5日(金)～7月2日(木)

火・木・土 10:00～18:45

水・金 11:30～20:15

(日・月・祝日は休室)

場所 UDCBK(野路一、西友南草津店1階)

# やまびこだより

今年度、教育研究所は「不登校対策を担う新しい研究所へ」のスローガンのもと「やまびこ」のスタッフを刷新し、新たにSSW（スクールソーシャルワーカー）を配置して、市内各学校、園との密接な連携のもと、児童生徒、保護者への支援の充実、強化をめざします。

## やまびこ教育相談室

さまざまな悩みを抱えている子どもや保護者は、安心できる場所で自身のしんどさを語り、少しずつ現状を客観視できるようになります。相談者自身が本来持っている力を発揮し、解決に向けての方向性を見出していけるよう支援します。



教育相談室



プレイルーム

子どもが自分の思いを適切な言葉で語れない場合、遊びなどを通して相談員との心の交流を図り、気持ちが自由に表出されるよう支援します。結果的に子どもの心が癒され情緒が安定するようになります。ここから適応指導教室へ繋げていきます。

## 適応指導教室

適応指導教室『やまびこ』は、学校に行きにくい状態にある子どもたちが学校復帰を目指してさまざまな活動に取り組みます。今年度から入級までの手続きが簡素化されます。



適応指導教室

## スタッフ紹介



中谷 仁彦



西澤 留美子



鈴木 信之



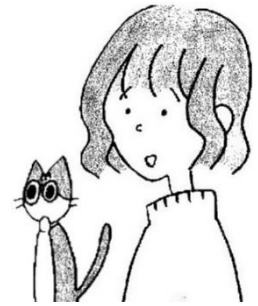
伊庭 裕美



恒松 睦美(SSW)

くわしくは教育相談主任会で配布した「手引き」をご覧ください。





## 『出来の良い子は、意外と自己肯定感が低い!?』

「自己肯定感」  
とは？

端的に言うと『自分の長所も短所も含めて自分を受け入れることができる』  
『無条件の存在承認であり「自分は生まれてきてよかった」と感じられること』です。

### \*自己肯定感が低い子どもの特徴は？

- 自信がなく劣等感が強い
- 他人との関わりが苦手
- 褒められてもあまり喜ばない
- 不登校、ひきこもり、うつ的な症状につながる
- 些細な事でキレやすくなる
- いつも何か不安を抱えている。不安を感じやすい。
- 怒られたり、指摘されたりすると極端に落ち込む
- いつも人の顔を伺って、あまり自分の意見を言わない
- 全体的にやる気や意欲がなく、何事もすぐに諦める



→自己肯定感を適切に育てることの大切さがみえてきます。

### \*自己肯定感を育てる関わりとは？



- ① 子どもの話をしっかりと聞く
  - ② 正しく褒める
  - ③ 感謝はきちんと言葉で伝える
  - ④ 人と比較しない
  - ⑤ 叱る時は存在でなく行為を指摘
  - ⑥ 十分なスキンシップ
- など…

\*「色々なことができるのに本当の意味での自己肯定感が低く、思春期になって自分を扱いきれなくなっている良い子」に出会うことがあります。

できなさを抱えている子どもたちも大変です。ただ、がんばっている姿を見ると、小さなことでも「すごいやん!」「できたね!」と大人の側も思わず褒めてしまいます。しかし、「できの良い子」は、あたり前にやるべきことをこなしているように見え、大人も(心中では本人を認めていても)褒め言葉や感謝の言葉をかけることがどうしても少なくなりがちです。その結果、周囲と本人の「認められ感」にずれが生じてしまいます。

\*また、もう一つの大切なポイントは「**無条件の存在承認**」です。行為を褒めるだけでは**条件付き承認**になり、良い子であればあるほど認められる為に頑張り続けてしまいます。

『叱る時は存在ではなく行為を叱る。褒めるときは行為や成果だけでなく存在も褒める!』

「○○君がいてくれてよかった」

「○○さんと話していると(△△していると)楽しい」

「いつもありがとう」

などの思いを言葉にして、誰かが繰り返し伝えてあげることが大切です。

